

JCMU newsletter

ミシガン州立大学連合日本センター
The Japan Center for Michigan Universities

No. 42
2007 春

2007年を迎えて



Dennis Meier

Interim Director of Japan Center for Michigan Universities

I am writing this report on the start of a new semester. This semester will see the arrival of Dr. Paul Reagan, the new Resident Director of JCMU. I will allow Dr. Reagan to introduce himself in a future newsletter. I believe he brings a solid academic background and a wealth of experience that will make him a very successful Resident Director. I want to thank all of the staff and faculty of JCMU for making my stay here very enjoyable and rewarding.

We will start the spring semester with fifty students on campus. In addition, we hope to have several Japanese students living in the dormitory as part of our B program. As a result, the dormitory will be filled to capacity requiring us to be very tolerant of each other. In addition to our intensive Japanese language program, we will be offering our student an opportunity to study other aspects of Japanese culture and society. This semester, we will offer a class at Shiga University on Pop Culture, and two classes on campus. We will be offering a class on Introduction to Japanese Minorities from Dr. Preston Houser of Baika Women's College and a class on Japanese Architecture from a visiting scholar, Dr. Donald Kerr from Michigan. Also an internet class on Intercultural Communication and Technology from Dr. Douglass Scott of Waseda University.

As you can see, the students have a wide variety of classes in which to study Japan. We are hoping our B program of offering English classes for Japanese will continue to grow and provide a valuable resource for the citizens of Shiga.

In closing, I again want to thank all who made my stay here enjoyable.

デニス・マイヤー

ミシガン州立大学連合日本センター暫定所長



オバリー教官による公開講座
アメリカ旅行をテーマに語りました。



留学生と地域の方との交流
お互いにインタビューをしました。

新学期のスタートにあたり、ご挨拶申し上げます。今学期は、JCMUの新しい所長であるポール・レーガン博士を迎えることとなります。彼についての紹介は、次回のニュースレターで行われることとなりますが、素晴らしい学業実績と豊富な経験を持つ人物で、JCMU所長としてたいへん適任であると確信しています。また、私自身については帰国にあたり、JCMUでの滞在をたいへん楽しく実りあるものにしてくれた周囲の方々に感謝の意を表したいと思います。

1月からの春学期は50人の留学生と共に始まります。これに何人かの英語プログラム受講生が加わることで、寮での生活は互いに配慮を要するものの、たいへん賑やかになりそうです。留学生向けには、日本語の集中クラスに加え、日本の文化や社会を学ぶ機会も提供します。今学期は、滋賀大学でのポップ・カルチャーの授業のほか、JCMUで二つの授業を行います。一つは、梅花女子大学プレストン・ハウザー先生による日本社会の少数民族についての授業、もう一つは、ミシガン州から来日するドナルド・カー先生による日本の建築についての授業です。さらに、インターネットを活用した双

方向コミュニケーション技術についての授業も、早稲田大学のダグラス・スコット先生により提供されます。

留学生向けに多様性に富んだ授業を提供してまいります。英語プログラムも地域の皆さんにとって、より有意義なプログラムとして発展し続けるよう尽力してまいります。

最後にもう一度、私の滞在をよりよいものとしてくださった皆さんに、この場をお借りして感謝申し上げます。

特集：環境科学プログラムインターンシップ (p.2~3)

Environmental Sciences in Japan 環境科学プログラムインターンシップ ～ 県立大学生との共同研究～

今回は、滋賀県立大学での環境科学プログラムに参加した学生をご紹介します。

2006年6月から8月にかけて実施されたこのプログラムで、参加した当センターの学生はホームステイをしながら県立大学で日本語を学び、環境学の講義を受講しました。さらに、それぞれの分野に応じて別々の研究室に所属し、県立大学の先生や学生のサポートを受けながら、インターンとして研究・調査を実施しました。同じ分野を学んできたことによる共通の知識が、言葉の壁を越えて共同研究を進める上で大いに役立ちました。

研究 環境にやさしい未来のエネルギー ～ バイオディーゼル燃料～

ジョシュア・ヒリスさん(フェリス州立大学 自動車技術工学専攻)
所属: 山根研究室(工学部)

私たちの共同研究では、大豆や菜種油、ひまわり油、使用済みの食用油などを再生してバイオ燃料を作り、これについて実験・検査などを行いました。

研究では、自分たちで精製したバイオ燃料により、4サイクルエンジンの車を走行させる実験を行い、排気や馬力についてのデータを集めました。光栄にも、その車を運転させてもらい、さらに一緒に研究した仲間とタイムを競うレースも行いました。スピードは時速30kmほどでしたが、私にとっては忘れられない思い出となりました。

これからバイオ燃料の開発がさらに進み、地球環境にやさしいドライブが身近になる日を楽しみにしています。



ジョシュアさん(左)

研究 リンが魚に及ぼす影響 ～ ニジマスによる共同実験～

アリソン・ストランドバーグさん(ミシガン州立大学 動物学専攻)
所属: 杉浦研究室

私は、「リンの摂取量が魚の成長と特性に与える影響」についての調査に従事し、県立大学生の助手を務めました。実験の対象として選ばれたのは、餌をよく食べ、水槽の中でも比較的飼育しやすいニジマスです。米原市にある醒井養鱒場から分けていただいたニジマス20匹を4つのグループに分け、それぞれにリンの含有量の異なる餌を与えて実験・観察を行いました。リンは、魚がエネルギーを生産するためには不可欠なものですが、多く摂取しすぎると消費されずに脂肪となって体内に蓄積されます。

私の日本語は限られていましたが、県立大学生の研究・調査を手伝うことができ嬉しく思いました。これからもe-mailで連絡を取りながら、調査結果を教えてもらう予定です。どのような結果がでるのか楽しみにしています。



アリソンさん(左)



研究 空気清浄化に役立つ植物は？ ～樹木による汚染物質除去率調査～

ヘイリー・ラルストンさん(ルイスビル大学 生態学専攻)
所属: 大田・丸尾研究室

空気中には、人間にとって有害となる様々な汚染物質が浮遊しています。汚れた空気の中から汚染物質を取り除く上で大切な役割を果たしているのが、私たちの身の回りの植物です。汚染物質の小さな粒子が葉に付着し、降雨によって洗い流されることで、空気がきれいになるのです。

今回の調査では、県立大学の学生に協力してもらいながら、クスノキ、ヤエザクラ、クロマツに対する汚染物質の付着率を比較しました。まず私たちは、葉の表面が細かい毛で覆われているヤエザクラが高い付着率を示すという仮説をたてました。しかし、実際に調査を行ってみると、この3つの中ではクロマツ



ヘイリーさん(右)

ツが最も高い付着率を示し、空気清浄化において最も効果的だという結果を得ました。

大気汚染を引き起こす原因の一つは、ガソリンなどの化石燃料の燃焼が増えたことです。工場や高速道路などでは、規制を設けるなどして大気汚染を防ぐための対策が取られているところも多くありますが、クロマツなどの針葉樹を導入すれば、より効果的に空気の清浄化が図られると思います。自分でテーマを設けて実験・研究に取り組んだのは、今回が初めてでしたが、県立大学の先生方、学生に助けてもらい、スムーズに行うことができました。



研究 地域特有の湖陸風 ～県大生と地域を走り回ってデータ収集～

ライアン・ドナルドさん(ミシガン大学アナーバー校 地球科学専攻)
所属: 倉茂研究室

気象や気候に関するデータを研究者はどのように集めるかというテーマで、県立大学の先生や学生と一緒に調査を行いました。一般的によく用いられている温度計の他に、アッシュマン温度計や、測風気球、風速計などさまざまな道具を使い、湖からの風や彦根市内の温度



ライアンさん

差に関するデータを採りました。県立大の学生と一緒に自転車に乗って市内を走りまわり、データを集める作業は、とても楽しいものでした。湖の中心から陸に向かって風が吹くという、この地域特有の現象は、日中に湖の水温よりも、陸の温度が高くなることによって起こります。正確なデータを採ることはとても難しかったですが、今回の調査によって興味深い結果が得られ、大変満足しています。



編集 後記

今回の共同研究を通して、住みよい地球環境を守っていこうという思いが、それぞれの研究チームの中で一つになりました。このことが今後、環境保護にむけての大きな力になると期待しています。

各学生を支えてくださったホストファミリーの方々、大学関係者の皆さんには、たいへんお世話になりました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

《春季英語プログラムご案内》

開講期間 2007年4月16日(月)~7月6日(金)

英語集中コース 月~金 10:00~12:00 13:10~15:10(金のみ~14:10)

留学・進学・転職・自己啓発のための英語総合力アップを図るコースです。午前中のみ受講できるモーニングコースもあります。

* アメリカからの留学生向け付属寮にルームメイトとして入寮できます。

スキル・テーマ別コース 週1~2回 10:00~12:00 13:10~15:10

あなたの目的・時間にあわせて、「スピーキング・リスニング」、「アメリカ・オン・ビデオ」、「総合英語」等の実力アップを図るためのコースがあります。

夜間コース 月・木 週2回 19:00~20:30

実用英会話ブラッシュアップのための夜間コースです。

申込締切 2007年3月28日(水)

大津コースのご案内

開講期間:2007年4月18日(水)~7月4日(水)

大津マルチスキルコース 毎週水曜日 14:00~16:00

大津夜間コース 毎週水曜日 19:00~20:30

場所:ピアザ淡海(大津市におの浜一丁目(びわ湖ホール東隣))

申込締切:2007年4月10日(火)

詳しくは、ミシガン州立大学連合日本センター
TEL 0749-26-3400までお問い合わせください。

ホームページも、ご利用ください。 <http://www.jcmu.net>

《一眼レフカメラへのこだわり》

今から四十数年前の学生時代に初めて写真の引き伸ばしを経験する機会があった。露光させた印画紙を現像液の中に浸し、しばらく置くと像が浮かび出てくることにずいぶん感動した思いがある。

そんなことがきっかけでカメラに関心を抱き、ショウウィンドウの一眼レフレックスカメラを羨望のまなざしで眺めることになってしまった。一眼レフのカメラに求めたポリシーはファインダーで見えているものと同じものがフィルムに記録(撮影)されることであった。欠けることがあっても余分な部分が写しこまれても困るのである。上下左右ともに100%の視野率であることであり、被写界深度もファインダーで見えているとおりに写真が撮れることである。そんな思いを抱いて、清水の舞台から飛び下りようなつもりで買い求めたカメラがニコンFであった。いまだに私の数少ない貴重な品である。

ところで、最近では、銀塩写真は過去の遺物となり、店頭はデジタルカメラで溢れている。デジタルカメラでは撮影する画面を液晶表示で見る機能が備わっている。撮影済みの写真も当然見ることができる。本来、カメラは望遠、広角、接写いずれの撮影も写る画像と同じものがファインダーで見える機構であってほしいと思うのである。光学式のファインダーよりデジタル処理される液晶表示の方が撮影される画面どおり視野率100%で表示されているのではないかと期待している。

さて、ここ最近ではデジタルカメラもコンパクト型から一眼レフ型に購買動向が変化しつつある。一眼レフレックス型デジタルカメラであれば尚のこと視野率は100%であってほしいと願うものである。しかし、国内の一眼レフ型カメラで視野率100%の製品はブランド品でもどちらかと言えば少数である。

製造者は確固たるポリシーで商品を世に示し、消費者は商品の特性の熟知に努め賢明な商品を選定するセンスが高まれば、とひそかに願う者である。
(川合國夫)

2007年度 行事予定

3 / 2 金 第55回公開講座(彦根開催)

3 / 2 金 第56回公開講座(大津開催)

3 / 4 日 ミシガン州サギノーバレー州立大学合唱団
ジャパンツアー彦根公演

4 / 14 土 日本語・日本文化プログラム /
英語プログラム(冬季)修了式

4 / 16 月 春季英語プログラム開講

長期ホストファミリー募集

ミシガン州立大学連合日本センターでは、アメリカ・ミシガン州を中心に、全米の大学から来日している留学生のホストファミリーを随時募集しています。留学生たちは、日本語、日本文化に興味をもっており、日本の家庭で生活しながら、皆様とふれあう機会を求めています。ひとりでも多くの留学生がホームステイの体験ができるようご協力いただければ幸いです。

当センターまでの通学所要時間が、1時間程度の範囲のご家庭であること、などの条件がございます。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

Snapshots



第16回ミシガンカップ高校生英語スピーチコンテストが開催されました。

31名の皆さんが、大勢の人たちの前でそれぞれの思いを英語で発表しました。

ミシガン州立大学連合 日本センター

〒522-0002

滋賀県彦根市松原町網代口1435 86

TEL 0749 26 3400 FAX 0749 24 9356

URL <http://www.jcmu.net>

編集・発行 (財)滋賀県国際協会 彦根事務所